



子安地蔵尊

子安地蔵尊大法会

七月二十四日(水)

轉法輪

行き悩む

浮世の人を

渡さずば

一夜も十夜の

橋と思ほゆ

平成二十五年六月十八日発行
発行所 犬飼山 転法輪寺
〒六三七一〇七二
奈良県五條市犬飼町一二四
電話〇七四七一二一四四〇三
FAX〇七四七一五一四七一七
編集発行人 桑山 慈紹
印刷所 和・伊都郡かつらぎ町妙寺
森本印刷工業所

奈良県五條市犬飼町一二四
電話〇七四七一二一四四〇三
FAX〇七四七一五一四七一七
編集発行人 桑山 慈紹
印刷所 和・伊都郡かつらぎ町妙寺
森本印刷工業所

どこまでも広がる青空の下、はす
が可愛い花を咲かせていてます。

来たる七月二十四日(水)は、お地
蔵さまの大祭です。酷暑の折ですが、
皆様お誘い合わせのうえ、多数お参
り下さい。

地蔵尊開眼五十年記念法要

地蔵堂にて 午前八時

大教堂にて 午前九時半

水児幼没靈供養

先祖諸靈供養

安産子授・子育て祈願

千灯供養 境内にて 午前十一時

昼食接待

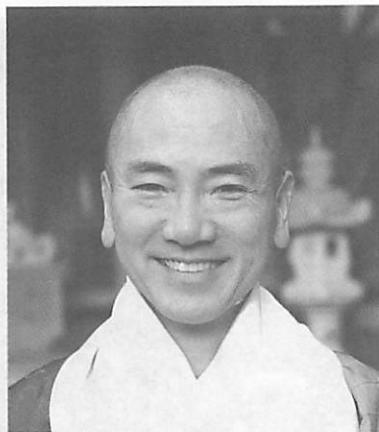
犬飼山 転法輪寺

名譽住職 桑山 慈紹

住職 桑山 慈紹 規

弘法大師正御影供奉修

お礼のご挨拶



住職 桑山慈紹

去る四月三十日(火)弘法大師正御影供を無事奉修させて頂きましたこと厚くお礼申しあげます。殊に総代様、お世話人様、犬飼区の皆様、御詠歌衆の皆様、寺方皆様、その他大勢の善男善女の力添えによるものと深く感謝申し上げます。

さて、此処に大師の御生涯の一部を紹介致しましょう。

弘法大師は今から約千二百年前、宝亀五年六月十五日、香川県善通寺にお生まれになりました。幼名を真魚さまと申され、泥で仏像を作り礼拝され、神童とも尊ものとも呼ばれています。御年七才の頃、近くの山(我拝師山)に登り、「私は大きくなつたら世の中で困つている人々をお救いしたい。私にその力があるならば命を長らえさせて下さい。さもなくば、この命み仏に供養します」と仏さまに念じ、谷底めがけて飛び降りました。すると、どちらともなく天女が現れ、真魚さまをシッカリ受け止められました。更にお釈迦様が現れ「汝の誓い空しくなし」と伝えられました。

大師四十二才の頃、四国八十八ヶ所を御開創されました。それは、阿波、土佐、伊予、讃岐の四ヶ国をどなたでも巡拝できる曼荼羅淨土の開創であり、悩み苦しむ人々の救いの道であります。この伊予の国(愛媛県)大洲に、番外札所「十夜ヶ橋」永徳寺があります。その昔、大師御巡錫の砌、一夜の宿を乞われました。しかしどの家も病人がいたり貧しかったり、悩み苦しむ人多く……お大師さまをとめてくれる家は一軒もありませんでした。そこで近くの橋の下で一夜野宿されたのでした。

その時大師は『ゆきなやむ浮世の人を渡さずば 一夜も十夜の橋と思ほゆ』と読みました。大師は橋の下の野宿がつらかったのではありません。この世に悩み苦しむ人が多く、あの人の

四国別格第八番



御野宿大師

伊予大洲十夜橋

(3)

轉法輪

のことこの人のことを思いながらの一夜が、十夜ほど長くつらい日であつたことよ、と読まれたのです。ゆき惱む浮世の人とは、我々のことです。渡すとは救済と云うこと。大師の御心が心にしみる歌であります。そこで四国の大師さんは、橋の下にはお大師さまが休まれている、勿体なくもその心の三分の一でも頂かせて頂こうと、橋の上では金剛杖をつかない作法が生まれたのです。

内吉野結衆寺院 総出仕



御礼

正御影供盛大

去る四月三十日



し生けるもののために、自らの全身全靈をこめて如来様と等しい救済者として永遠に生きること、これが入定であります。それから千百八十余年が過ぎたこの平成の世にあって「南無大師遍照金剛」の御宝号は益々輝きを増し、その光を求める人が後を絶ちません。

ありがたや高野の山の岩かげに
大師はいまだおわしますなる

あなたれしゆくも帰るもとどまるも
我は大師と二人づれなり
南無遍照尊 南無遍照尊

心配された雨も午後には上がり、もちまきも盛大におこなうことができました。

岡山県、橋本高淳僧正の法話もあり、すばらしい御詠歌も披露していただきました。

**みえく
チャリティー
バザー**

収益金 55,300円は
復興活動基金として
高野山足湯隊に
寄附させて頂きました。



生かせいのち

【第三十八話】

名譽住職 桑山聖規



胎児の中絶は無慈悲

戦後日本は住居も食料も不足で生活は苦しく、兵隊さんの復員で出産は急増していました。政府は優生保護法を作り人口の増加を防ごうとしたのです。

今まで墮胎は刑法にふれて処罰されていたのが無くなり、公然と胎児の中絶が出来るようになつたのです。

これにより中絶希望者が多く産婦人科医は多数ありました。昔は五十人位の子持ちは多くありましたが、戦後は親の考えも二・三人の子供で止めようと変わつてきました。

其の後母体に種々の異変が出てきたのです。

拝んで見ると赤ちゃんが肩に何人子安地蔵尊像を建立して開眼供養を修行したのが、昭和三十九年七月二十四日であります。

五十年間に参拝供養を受けた人は何万人もおられ、たくさんの方がおかげを受けられました。

水児が人に生まれる希望も消えて、

供養してもらえぬ為に佛の世界にも行けず、苦しみ泣いて母に知らせていました。

いのちは全て平等にして尊い妊娠三ヶ月も五ヶ月も十ヶ月も変わりなく尊い、赤ちゃんも少年も青年老人も同じく尊いのに変わりありません。

参拝の信者の方々には、反省と懺悔と至心に供養する事を説いて実行して頂いています。これにより多くの方が心身が健康になり幸せになられました。

縁あつて腹に宿つた子供を中絶する事は、母親はつらい思いや悲しみを持ちながら心を鬼にして、実行された事だと思いますが年月がたつにしたがい忘れ去られています。

産み育てた子は一生天涯愛情が尽きません。同じ腹に宿つた我が子だから中絶の子にも変



わらぬ愛をと言つても無理ですが、佛壇の中に位牌か水兜地蔵尊をまつり毎日拝んで下さい。

七月二十四日の子安地蔵尊大法会は忘れかけた過去を思い出して是非ご参拝下さい。

地蔵尊建立五十年に当たる今年、盛大に記念法会を修行して生命の大切さを宣説し、救われぬ水児靈を供養救済し併せて、親の難を除き開運を祈りたいと念願しています。

合掌

心に宝を—8—

おりがとう

宝形山 地蔵寺

井上覚善

先日、熊本の実家で両親の古希の祝いをすることになり、久しぶりに帰郷したときのことです。

眺めておりますと、「子供の頃は、きかん坊で、本当にしようがなかつたからなあ」「自由気ままに山河を駆け巡つて泥んこになつて遊んでばかりいたなあ」という想い出が次から次へと浮かんでは消え、そして「両親には苦労ばかりかけたなあ」「もつと手伝いや孝行しどけばよかつたなあ」「あんなことして、さぞ心配したやうなあ」「お寺の跡を継いで欲しかつたやうなあ」と、当時の親の気持ちを察すると、申し訳なさに自然に涙がとめどなく溢れ、ぽろぼろと頬をつきました。そして「この機会に、ちゃんと謝ろう」と思つておりました。

しかしながら、いざ両親と顔を会わせると、やつぱり照れくさくて、祝いの席でも、結局は言いそびれてしましました。

ですから私たちも、その」恩を忘れず、「ありがとう」「おかげさまで」の感謝の気持ちを新たにし、限りある命を大切にして、一日一日を精一杯、生きたいものであります。

合掌

私は六人兄妹の長兄ですので、代表でひと言、両親に感謝と祝いの言葉をと思い、空港からの高速バスの中であれこれ考えておりました。

車窓からの流れゆく懐かしい風景を

眺めていますと、「あと何年位、生

きていてくれるだろうか。ひ孫の顔を見れるまで元気でいてくれるだろうか。」

と一抹の寂しさを覚え、「出来る時にしつかり親孝行とかなくては。」とあらためて強く思いました。

私たちは常日頃、忙しく生活しておりますと、つい、親や先祖のおかげで

「今」があるということを忘れがちになってしまいます。しかしながら、生きている私たちの命は、親・先祖が、

それぞれの時代を一生懸命生きて、命がけで繋いでくれた、かけがえのない

「宝」であります。

ですから私たちも、その」恩を忘れず、「ありがとう」「おかげさまで」の感

謝の気持ちを新たにし、限りある命を

大切にして、一日一日を精一杯、生きたいものであります。

それでも両親は六人の子育ての苦労を微塵も感じさせず、満面の笑みを浮かべて喜んでくれ、「親というのは本当に有難いなあ。」とつくづく思いました。

地蔵尊五十年の歩み



お地蔵さまの 慈悲の心におすがりして・・・



地蔵堂ができるまでは、お地蔵さまの前にテントをたてて、法要をしていました。
(昭和52年頃)



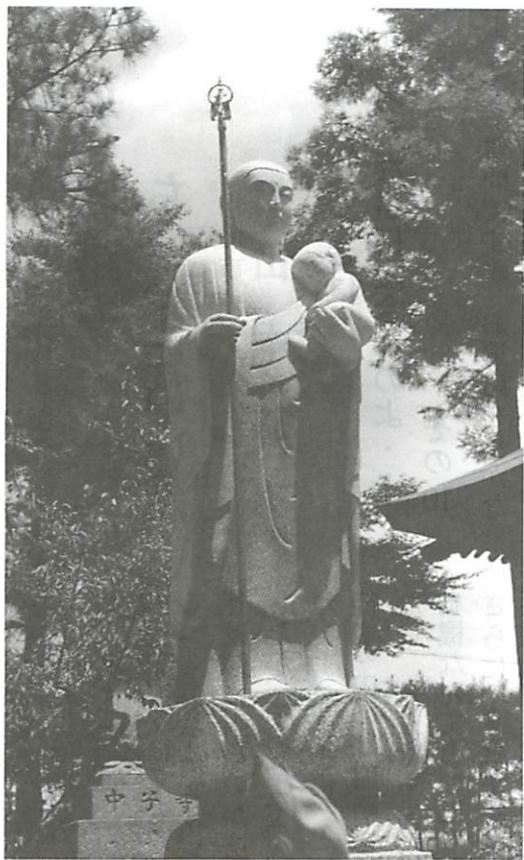
まだ教堂もなかったころ、信者のみなさんは“くり”から、おがんでいました。



吉野川にて地蔵流し（プールの中に、お地蔵さまをうかべ、そのプールを川に流していました。）



千灯ろうそくの手送り
(ゴマ堂から地蔵尊まで)



昭和39年、たくさんの願いがこめられた地蔵尊が建立されました。



お地蔵さまのおすがたを、信者さんがながしている間、川原でおがんでいます。
(昭和50年頃)



地蔵尊のおすがたをご真言をとなえながら、吉野川に流しました。



境内がおまいりの人でいっぱいになりました。上につってあるのは、子どもたちの洋服やおもちゃをお供えしていただいたものです。 (昭和56年頃)

四国八十八カ所

歩き遍路の

ちよつといい話

松山市

山本益男

歩いているときは

いろんな事に出会うのよ・・・

その10

よくある質問ですが、お遍路を歩かない、歩く気もない人に聞かれるのは、「なぜ、お遍路に?」、または「なぜ、歩いてお遍路に?」である。

私は道中、決して同宿や休憩している歩き遍路の人には聞いたことはしません。なぜなら、かつてある同宿の老遍路からこう聞いたことがあるからである。「遍路に出た動機などを軽々しく聞くんじゃないよ。人それぞれの事情があるのだから。本当に親しくなって、ちゃんと受け止められるようになつたら別だが・・・」。また作家である司馬遼太郎は『街道をゆく』の著書の中で、お遍路についてほんのわずかだが触れていて

る。「阿波紀行」の中で彼は言う。「ともかくも私は遍路がわかりにくい。このため、この旅では札所の寺については靈山寺だけにとどめようと思つている」。著者である司馬遼太郎は、人はなぜ遍路に出るのかを知りたくて調べ尽したが、その結果「人の動機などそれぞれであるらしい」と思い至り、「阿波紀行」の中では遍路について詳述していない。そんなもんなんです。お遍路の動機なんてものは。

さらに、夕食が終つての雑談の中、その方は酔つた勢いなのか、「お遍路は一人です」と言われ、歩き遍路初心者であつた私はびっくりしたことがあります。よく四国遍路の雑誌などでは、白装束の一団が菜の花の咲き乱れる道を歩いている光景で紹介しています。しかし、「お遍路には、同行二人という言葉があつてたとえ一人であつても、お大師様がそばで見守つてくださるから安心してお参りできる。杖はお大師様の身代わり。いつも自分とお大師様の一人で歩いているんだよ」とおっしゃった。これが同宿遍路の答えだった。

「さん」と言われるお遍路とは言葉をかわしたことがない。挨拶もまれである。彼らはいつも連れ立つて歩き、話しへは夢中である。時間が限られているのか、せわしげにお堂の間を行き来している。こちらの歩き遍路には目を向ける余裕もなさそうである。

始めての歩き遍路、第二十番太龍寺での出来事である。鶴林寺、太龍寺とつき歩きをして、太龍寺手前でしばしば休憩しているときだつた。数十人の白装束が目の前でたむろしている。ロープウェイのゴンドラから吐き出された団体のお遍路である。引率者の説明を受けて、これから目の前の急な石段上のお寺に向かうようだつた。石段はかなりの段数である。しかも勾配がきつい。団体のお遍路さんたちは年配者が多いため、さぞ難儀なことだろうと、気になつて様子を見ていた。とにかくお寺の石段はビルの階段とは違う。まづ、段差が大きい。普通の階段の倍はあるそうだ。しかも、足元が平らでないこともある。しかし、ここはロープウェイで巡拝できるほどのお寺である。巡礼への便宜は忘れてはいなかつた。

轉法輪

石段の両側の杉木立に九十九折の道が隠れていたのである。前もつて知らされていだのだろう。ほとんど人は石段を避けて、そちらを目指して歩いているではないか。私はといえば、あえて石段（苦行？修行？）を歩く。お遍路はご宝号を唱えながら歩くのも修行、といわれる。

「南無大師遍照金剛 南無大師遍照金剛」と唱えれば、苦しい歩みにも耐えられるという教えである。「心頭滅却」に通じるものがある。しかば、と私もご宝号を口にしたが、続かない。ご宝号では歩くりズムに乗れないのである。大きな声では云えないが、「イチ、二イ、サン」、「イチ、二イ、サン」唱え、二歩歩いて杖を突く。そのほうが、気勢もあがってテンポよく歩けるのです。なんか間違つているような気しますが……。

歩き遍路では、車道も歩くことになるのでクルマ遍路ともよく出会う。クルマ遍路はこちらの姿をとらえると、速度をゆるめて頭をさげていく。「暑い中を大変ですね」とその顔が言つてゐるし、「すみませんね、こちらはクルマで

の樂してのお参りで」と表情を曇らせているのもわかる。遍路道は自分の好きなように歩けばよいと思う。ただ、「団体さん」であろうと「歩き遍路」であろうと、せわしげなのはいただけない。時間とお金との相談になるが、せかせかしたくないものである。

最後に、そうそう今回のちよつといい？話は、黒松林が続く高知県入野松原での出来事。ちゃんと遍路案内看板を見たにもかかわらず、しばらく松林の中を歩いて何となく、この道でいいのかなと不安になつてくる。いい加減に道を聞こうかとあたりを見回すと、今日も「我に運

あり」のようである。ウォーキングか散歩中のご婦人がこちらに向かつてくるではないか。

「すみません。

かなかと不安になつてくる。いい加減に道を聞こうかとあたりを見回すと、今日も「我に運



（入野松原で海岸に向かう途中で「鯨のりば」という看板を発見しました。鯨に乗つたことのある人は、ぜひ乗りし、「すみませんね、こちらはクルマで

「そうです。あの

の声が……。」

松林の中を通ります。目印があるのでわかりますよ。婦人がこちらの歩調に合わせてきた。このコースがご婦人の散策ルートなのか、それとも私の道案内をするつもりなのかは察しかねるが、まあ、どちらでもいい。美しいご婦人と連れ立つての散歩？なのだから。二十分も歩いたどうか。松林を右に折れたところで婦人が口を開いた。「この道を左に行つてください。公園が続きますが遍路道です。四万十川はその先ですよ」。ご婦人は一礼して遠ざかつた。いやいや遍路道でつかの間のデートを楽しめるとは想像だにしなかつた。このような出会いは菅笠と金剛杖があつてのこと。「お大師様ありがとうございます」とうございます。こんな有り難い時には「お大師様」が素直に口から飛び出でくる。今日もいい一日になりそうである。が、すかさずお大師さまの「おぬし、修行の身ではなかつたのかな？」の声が……。

轉輪法

ちよつと感動する
スニアキなお話



健康は自分で
つくりだすもの

五條市

今田順子

不健康な生活習慣が主な原因で、糖尿病等の生活習慣病になる人が多くいます。しかし、毎日積み重ねる努力をして、健康を取り戻した義兄のちょつとステキなお話をご紹介します。

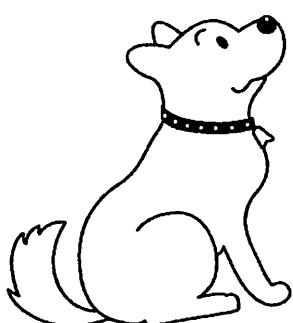
兄は、教職を終えた頃、糖尿病と診断され、薬を服用しながら食事療法をし、夫婦でウォーキングをしたり、ブルに通つたりして運動を続けました。しかし毎日続けるということは、強い意志と努力が必要で、なかなか難しかつたそうです。

の一員となり、朝夕お散歩をせがむので毎日「しろ」と歩いそうです。同じ道を何年も歩いていると、兄は四季の移り変わりや自然の様子に関心をよせるようになり、やがて俳句に興味が湧き、句会に入会したそうです。出来上がる句は勿論この散歩道で見た事や感じた事が殆どです。

野仏や読経のごとき、蟬しぐれ
地蔵盆集う童に犬の子も

俳句に出会うまでは、「ああ、彼岸花か」と無関心通り過ぎていましたが、俳句に出会つてからは珍しい物を見つけると新発見でもしたような気分になります。いろいろな草花とも親しくなり、又、鳥の種類の多さに気付き、驚いたそうです。

現在、日本では、二千二百十万人が糖尿病、又は予備軍と推定されています。「肺炎が一年の刑なら、糖尿病は終身刑である。」と例えられる程、やつかいな病氣ですが兄のようにあきらめずに努力して「もう大丈夫ですよ」と太鼓判を押してもらつた人もいる事をどうかお忘れなく!



いて運動した事と、食事に気をつけた事で糖尿病は良くなり、医師にもほめてもらえたことです」と語ってくれました。

兄が、薬だけに頼らず、何とか糖尿病を治したい一心で自分に出来る事を一つでも努力して改め、ちゃんと結果を出せたことに私はいっぱい拍手を送りたいと思います。

ニッコリ オハナシ

△テレホン法話《0747-25-0874》どうぞ聞いて下さい。

老ふる「J」

生きぬく事を

母から学ぶ

東京都渋谷区西原

小 菅 清 美

大正五年生まれ、今年九十七才の母は、今まで大きな病気もせず、何事にも前を向いて努力を怠らない人です。嫁いでからは、先祖の供養と子孫の為、仏道を学び、仕事や子育て等、いつも一生懸命でした。

そんな母が、いつからか同じ話を繰り返したり、強い拘りを見せる様になり、調べていただくと、アルツハイマー型認知症で、すでに末期との事でした。しかし先生も驚く程、しつかり見え、家族の認識もでき、その場の会話も成立しています。

今では直前の事すら思い出せない母ですが、毎日かかる事なく朝夕にしつかりとした大きな声でお経をあげているお陰ではないかと思います。もう一つお経のお陰で喉の筋肉が鍛えられ、誤飲の心配もなく、毎日美味しく

食事を取り事も出来ています。

今年の一月に圧迫骨折のため、立ち歩

きが出来なくなってしまったのは残念ではあります、三度の食事の折には、(世間話をしても解りませんので)お寺さんからいただいた「生かせ命」という本を

私が何度もくりかえし、読み聞かせをしています。時にはわからない漢字などは母に聞きながら・・・。

私も仕事をしながらですので、日中は一人でベットに横になつて事が多い。(常にお経をとなえています)こうして私とゆっくり過ごす時間が、母にとりましても安心できるひと時のようにです。

母は毎回、「いいお話を聞けて、良かつたわ。」と言つてくれますが、実は私の方こそ思いがけず、勉強をさせていただきたい気がします。何事にも「ありがとうございます。」お経の最後は「ありがとうございます。」そんな事が私にもできるだろうか?と考えさせられます。

沢山人の手を借りながらの毎日ですが、母は今、私達に最後の教えを示してくれているのではないかと感じ、お大師様のお陰と感謝し、今日一日をしつかりと生きて行こうと思う毎日です。合掌

除病・防病

キュウウリ加持秘法

八月三日(土)

朝八時より

～三時まで



土用の丑の日に、キュウウリ加持を行う
けて今夏を元気でのりきつて下さい。
ご祈祷を受ける人数分のキュウウリを持つてお参り下さい。

お盆を迎えて――

今年もお盆の季節が近づいてまいりました。精霊棚に数々の心づくしの供物を供え、お墓にも家族揃つてお参り下さい。

白い花浮かびあがりて

花山法師

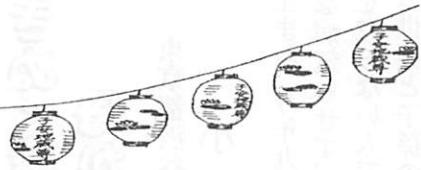
一期一会の妙法を説く

坂田義章



予安地蔵尊大法会

7月24日(水)



お地蔵様の大祭にどうぞお参り下さい。



ゆかたで
集まってくれる
子ども達 募集中!

毎週水よう日の夕方練習しています!



◆教堂でのおつとめ

午前9時30分より

(谷口幸一氏・中本道夫氏 撮影)

予安地蔵尊のお願い

- ①水児に奉納下さる赤ちゃんの新しい着物や服、下着、または人形、玩具、菓子等は、七月二十一日(日)までにお願いします。
- ②七月二十四日(水)は八時から法会が始まります。

- ③水児供養を希望される方は、同封した供養申込書にてお申込み下さい。当日でも受付ます。
(一靈五百円です。)

へご奉仕のお願い

暑い時ですが、世話人様はじめ信者の皆様のご協力をお願いします。

- ①七月二十三日(火)掃除、のぼり立て、ちようちんつり、飾りつけなどの諸準備。

- ②当日七月二十四日(水)早朝より。世話人様は、白衣(又はおいする)・おけさ・うで念珠をご着衣下さい。

- ③七月二十五日(木)、あとかた付け。

- 有志により高野山(よだれかけ付け)参拝

キューピーさんのお洋服・よだれかけ手作りにご協力おねがいします。